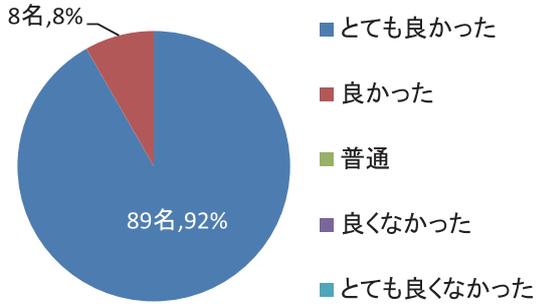


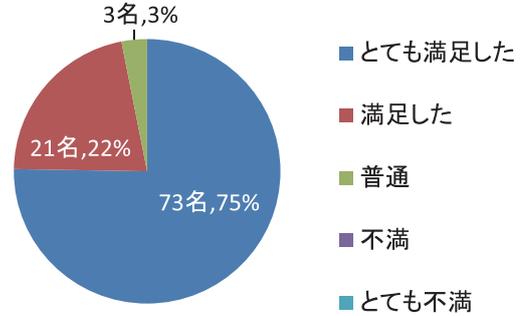
平成25年度 へき地校体験実習 事後アンケート (平成25年12月5日現在)

実施者：北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門  
 実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布  
 実施期間：平成25年9月～11月  
 対象者：99名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期〕履修生）  
 回答者：97名（回答率98.0%）

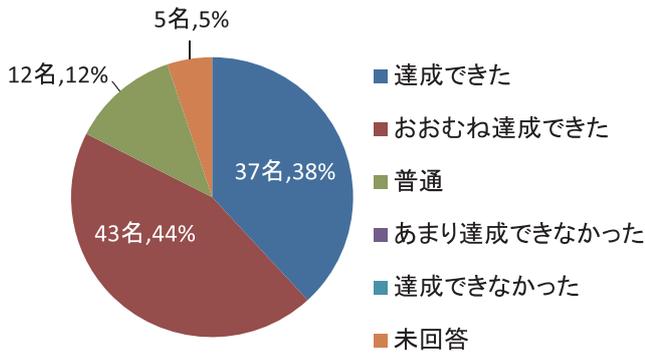
1. 実習に参加してよかったか



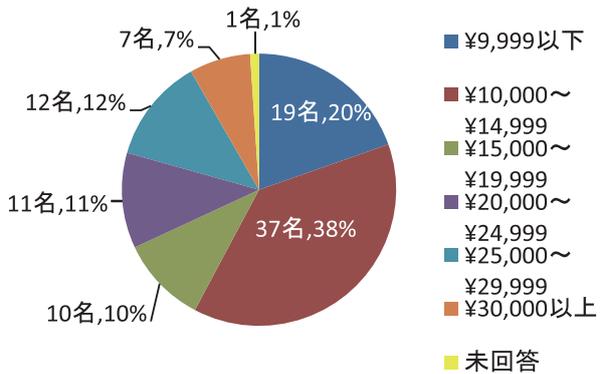
2. 実習の満足度は



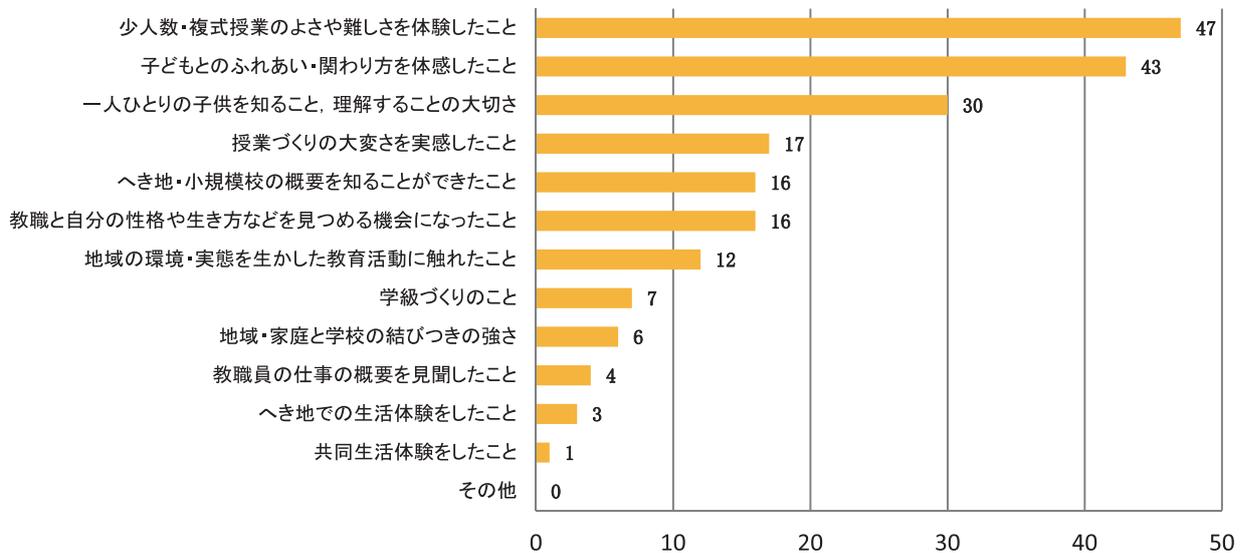
3. この実習で学ばれたことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど(1名2項目回答)



※2名が未回答, 1名が3項目回答, 1名が4回答, 1名が11回答している

## 11. 実習を終えた感想

- ・7日間という短い間ではありましたが、学ぶことや感じるものがたくさんあり、とても良い経験になりました。何より、先生方や地域の人たちが温かく、また児童は素直で明るい子どもたちばかりだったため、すぐに馴染むことが出来ました。「帰りたくない」と感じられる程、素晴らしい環境で学ぶことができ、本当によかったです。一番よかったと思うのは、実習先の先生方や子どもたち、地域の人たちに出逢うことができたことであり、利尻にふるさとのような気持ちになりました。
- ・本当に最高の5日間でした。子どもたちは目に入れても痛くないほど可愛くて、また教職員の方々、宿泊先の方々もとても良くしてくださいました。初めて実際に現場へ行ったことでもちろん学んだこと、勉強になったことは多々ありますが、何より人のあたたかさ、心の綺麗さを肌で感じることでできた実習となりました。このへき地校体験実習は私の宝物であり、一生忘れられない貴重な経験です。
- ・「行って良かった。」の一言に尽きます。たくさん学び、人のあたたかさに触れ、お世話になりながら素晴らしい体験・経験になりました。この恩返しは自分が教師となった時にして下さいと言われ、本当に頑張ろうと思えました。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・生活が辛かったです。どこに行くにも何をすることも時間がかかってしまい、授業の準備もあり毎日寝不足でした。しかし、子どもも先生方もとても温かく迎えてくれて、学校での生活はとても素晴らしく充実していたので、自分にとってかけがえのない経験となりました。
- ・5日間の中で指導案を作り、授業するのは大変でした。加えて、自分たちだけで生活しなければならず、慣れないことがたくさんあり、辛いと感じたこともありました。ですが、終わってみると良い思い出になりました。
- ・児童たちの素直さや真つすぐさに改めて気付かされることがたくさんありました。授業実習では、基本的な指導技術だけでなく、児童観や複式ならではの間接指導についてなど、先生方が模擬授業の機会をひらいて下さり丁寧に助言していただきました。そのような中で、自分自身の課題を明確にすることができたのと同時に、教師という仕事の魅力に改めて気付くことができました。
- ・自分の至らなさを強く感じました。へき地・複式・小規模校であるという以前に、もっと実践的な指導法について学びたいと感じました。私の中では、へき地小規模校はきめ細やかな指導ができ、豊かな自然のなかでのびのびと子どもたちが過ごせる環境だと感じました。もちろんハンデはありますが、それに打ち勝つ指導力を身につけたいと感じました。
- ・自分の学級のような気持ちが残りに、児童と別れるのがとても辛かったです。初めての授業も経験して、少しは教師に近づくことができたと思えました。本実習に向けて良い経験になったと思います。毎日毎日、児童とふれあうたびに、教員になりたいという気持ちが高まり、先生ならなれると児童に言われたのが、とても印象に残っています。
- ・実習の前はとても緊張していて、どうなることかと思いましたが実習を終えると1週間がとてもあったという間で、楽しい実習でした。札幌ではあまり見ないような課外活動や、他学年との関わり、全体としてのまとまりが見られ、へき地・小規模校ならではの魅力がたくさん見つかりました。また子どもたちがとても可愛く、最後の別れは寂しい気持ちでいっぱいになりました。また楽しかった反面、授業では反省点がたくさんあり、もっと勉強しなければいけないと実感しました。全体を通して、とても実りのある実習でした。
- ・自分の予想以上に充実したものとなりました。課題や反省点は山積みでしたが、それらを解決する手がかりを多くつかむことができました。また、何よりそのための努力を進んでいきたいと思えるような元気をもらいました。
- ・自分の視野の狭さを感じた1週間でした。教壇実習では、指導案通りに進めることが授業ではないと知りました。1週間で人を知ることはとても難しいことだと改めて感じました。それと同時に自分は考えるのがまだ浅い人だと思いました。
- ・その時は一生懸命にやっていたつもりでしたが、日が経つと「もっとこうできた、もっとこうすればよかった。」と反省ばかりしています。しかし、子供たちは手紙をくれるなどして私との別れを惜しんでくれて、こんな未熟者なのに申しわけないと思いつつも、もっと知識を得て経験をつんで堂々と「先生」と名乗れるようになりたいと思いました。
- ・実習を通して、たくさんのことを学べたため、とても自分の教師像に良い意味で影響を与えてもらった実習でした。

特に学級経営においては、教師と児童の信頼関係を築くために大切なことや、その他にも気をつけるべき点等について学ぶことができました。

- ・小規模校での実習を行ったことで、北海道で教員をする意欲が高まりました。地域との距離が近いへき地校ならではの体験をすることができてよかったです。現場に入って複式学級を持ったときでも、この経験を生かしていこうと思います。
- ・5日間という短い期間でしたが、毎日楽しくそして有意義に過ごすことができ、参加できて本当によかったです。欲を言えば、1カ月くらいは実習していたいという気持ちになりました。私はへき地校に対して少なからず偏見を持っていましたが、この実習に参加してへき地校で先生をやってみたいという気持ちになりました。
- ・反省点が多い実習となりましたが、楽しく充実した実習となりました。
- ・へき地校実習を終えて、正直とてもむなしいような、からっぽになってしまったような感覚が残っています。それは、今でも子どもたちは何をしているのだろうか、元気に生活しているだろうかという気持ちが消えないからです。たった1週間の期間でしたが、ここまでも子どもたちのことが頭から離れなくなるとは思いませんでした。子どもたちや先生方からたくさんの刺激を受け、もう一度教師を目指そうと心に決めました。
- ・1週間という短い間でしたが、本当に多くのことを学びました。特に、今までは講義を通して知識としてしか知らなかったものを、実際に見て体験することで、より深く知ることができ、自分の力になったように感じます。子どもたちとも様々な場面でふれあうことができ、仲良くなることができ、とても楽しかったです。また、先生方にも色々教えていただいて、指導も受け、2年生の段階でこういった経験ができたことは本当に良かったです。今後の大学生活や3年次の実習にも活かしていきたいです。
- ・「へき地実習に行って本当に良かった」と思いました。子どもたちは、素直でまっすぐで本当に可愛く、この子どもたちがどんな大人になるのだろうと考えると、とてもわくわくしました。そして、子ども一人ひとりと向き合い、成長していく姿を見ることができ、教師という仕事はとても素晴らしい仕事だと実感しました。本気で教師になろうと、この1週間で思いました。
- ・実習に行くまではかなり不安が多かったのですが、実際に行ってみるととても楽しい実習でした。事前指導でも実習に対する意識を強めることが出来ました。教師の授業以外の仕事を見つけることができたこと、児童たちと長い間かかわることができた事が、私自身の力になったと思うので、とても良い実習になりました。
- ・私は将来、へき地校で教師として働きたいと考えているので、今回のへき地校体験実習で実際の現場で子どもたちの様子や教師の姿を見て、感じる事ができて本当に良かったと思っています。こんなに素晴らしい実習が抽選というのは残念です。できるだけ多くの人が体験できれば、もっとへき地への理解が深まると思いました。
- ・大学2年生のこの時期にこのような体験ができて本当に良かったです。また、教師の仕事は本当に大変であることが分かりました。しかし、子どもの成長を見ることができたり、子どもの成長を手助けできることは、素敵なことだと思いました。来年の実習に生かしたいです。
- ・生徒たちとの交流、現場の先生方からの指導・助言、授業体験等、様々な経験をする事ができ、実習に参加することができて良かったと思っています。教師としての責任が足りない、また、教科指導力の無さといった反省点も多く残り、今後の生活に活かすことのできる実習だったと感じています。教師を目指す過程の中で、実習先の子どもたち、先生方に出会えたことは、とても大きな意味があると思っています。参加して本当に良かったです。
- ・以前イメージしていたものより、実際の実習は大変でした。しかしそれ以上に充実していてかけがえのない思い出が出来たと思います。子どもたちがいろんなことに全力で取り組んでいる姿を見て、教師もそれに全力で答えなければならぬことが分かりました。色々なことがありましたが、本当に実習に参加できて良かったと心から思います。
- ・今回の実習では、複式学級における授業の組み立て方や、わたり、ずらしなどの効果的な活用について学ぶことができ、将来の参考にすることが出来ました。また、教師になりたいと思う気持ちが強くなりました。
- ・実習を終えて、素直な気持ちとしてもう少し中学校にいたかったと感じています。生徒とは4日間かけて少しずつ仲良くなり、やっと自然に話したり遊べるようになった中で、あっという間に終わってしまいさみしく思います。
- ・一番の感想は子どもたちが可愛かったということです。お別れ会で声を出して泣いていた子どもたちをみて、「教師は素晴らしい仕事だ」と思うことが出来ました。また、「国の子寮」のこともあり、子どもたちと上手くかかわれる

か不安でしたが、しっかりと向き合えば、みんなしっかりと応えてくれて、とてもうれしかったです。とても有意義な実習でした。

- ・合宿生活を共にした友人や実習校での先生方など、たくさんの人々と関わり、温かく出迎えていただき、様々な場面で助けられ勉強することが出来ました。何でも自分から意欲的に活動をし、子どもたちともたくさん関わり、毎日がとても充実していました。子どもたちと関わる中で自分は本当に教師になりたいのだなと強く実感し、子どもから学ぶこともたくさんありました。想像以上に1日1日が濃く、素晴らしい5日間を過ごすことができ、本当に思い出となりました。
- ・素直に楽しかったです。へき地の子どもたちは皆素直で、人なつこく、真面目に勉強に頑張っている印象が強く残りました。また、地域とのつながりが非常に強く、様々な行事に子どもたちと一緒に参加し、とても充実した日々を送ることが出来ました。
- ・本当に行って良かったと思えました。こんなに長く、子どもたちと深く関わったことは初めてだったので、難しさを感じたとともに、楽しさや分かってもらうことの嬉しさなどを感じる事が出来ました。今回、子どもたちと関わりをもつ中で、見えた課題は来年の本実習に生かしていきたいです。
- ・へき地校体験実習に行くことは本当に意味がありました。子どもたちと実際に関わることが出来ましたし、先輩である現役の教師から色々な話を聞くことが出来ました。その体験が自分の中の教育への思いをもう一度考えさせることにつながりました。機会があれば、もう一度実習を受けたいです。
- ・とにかく1番に思い出されるのは、子どもたちが本当にかわかったことです。授業は緊張しましたし、作業が終わらず眠れない日もありましたが、学校で子どもたちに会えたことですべてふきとびました。そのぐらい子どもとの出会いが大きく、また、たくさんのことを教わることが出来たので良かったです。
- ・実際に実習に行くまでは緊張と不安でいっぱいでした。しかし、実習に行ってみると、あつという間の時間に感じました。へき地校というものを初めて直接見ましたが、大学の講義だけでは学べないことを多く学べました。実際の学級経営、子どもの様子など様々なことを学ぶことが出来て良かったです。来年の教育実習へと少しでも生かされるようにしたいです。
- ・生徒と多くふれ合い、多くのことを学びました。これだけ長い期間、学校で実習をするのは初めてでしたので、とても良い経験となりました。教師にもお話をたくさん聞くことができ、視野が広がりました。
- ・地域の人とのつながりを身をもって体験することが出来ました。子どもたちも純粋で、真正面からぶつかってきてくれ、大きな学びができたと共に心が温まり、生気をもらいました。先生になりたいという気持ちが強まりました。
- ・実習をするまで、へき地に対してマイナスなイメージが強くありました。しかし、実際に行くことでへき地校の濃密な教育、人と人とのつながり、学校全体のあたたかさを強く感じました。また、授業作りを体験し、現場の先生がどれだけ授業作りに苦労しているかを実感することが出来ました。貴重な体験ばかりで充実した実習となりました。
- ・今回の実習では、自分が教師を目指すうえで重要なチェックポイントとなりました。これまで考えていた教師の実像・授業構成・子どもとの触れ合いなどの固定概念が一気に覆されました。それと同時に、自分の学んでいる環境や知識といったものは、狭い世界での学びになっていると感じました。同じ道内でも、ここまで教育の概念が違っていると自分の地元や他の地域ではどのような教育をしているのかという視点を生み出してくれた実習でした。
- ・5日間は本当にあつという間でしたが、とても濃い日々を過ごすことが出来ました。子どもととにかくたくさん遊び、勉強に取り組むことを通して関わりを大切にすることを意識して過ごしました。教壇実習では、計画通りに全てが進んだ訳ではありませんが、教材準備等、子どもに分かりやすく教えようと楽しみながら取り組むことが出来ました。大変有意義な実習となりました。
- ・教頭先生には、行き、帰りにとたいへんお世話になりました。私はずっとコンビニエンスストアが近くにあるところに19年間住んでいたのですが、1週間へき地に住み、とても勉強になることばかりでした。児童一人ひとりがかわいく、毎日小学校へ行くのが楽しかったです。
- ・今回自分が目標としてきた複式の授業を見ることに加え、授業をすることもでき、複式の難しさ、良さを学んでいくことが出来ました。また、フィールド研究ではなかなか児童の名前がクラス全員分覚えられませんが、児童皆の名前を覚えて、皆と楽しく活動することが出来ました。

- ・複式授業の工夫や、それに伴う先生の大変さなどを身近で観察することができた1週間でした。子ども達ともたくさん関わることが出来て充実した実習を送ることが出来ました。また、教師になりたいという気持ちがとても高まった1週間でした。
- ・この実習を通して、自分が将来どのような学校・どのような地域で教師という職に就くかについて再考させられました。自分が思っている以上にへき地にはへき地の良いところがあり、驚かされています。また、先生方や生徒たちが温かく実習生を迎え入れてくれて、とても楽しく様々なことを学んだ実習となりました。
- ・この実習を通して思ったことは、地域の人たちとのつながりがつよいということです。気軽に話せるというのは、とても大切であるということがこの実習から学びました。この実習は、とても楽しく充実したものとなりました。また、これからの課題も見つけることができたので実習に行っても良かったと思います。
- ・小学校を訪問したことがなかったので、小学校の様子を知ることが出来ました。また、へき地校の子どもたちの絆と地域のつながりを肌で感じる事が出来ました。

## 12. 実習中、特に指導を受けたことはどのようなことでしたか

- ・自分が教師の立場だったらどう言動するかということを考えて観察するようにと指導いただきました。
- ・生徒ごとの発達における課題を知ることにについてです。また、ただ仲良くなるのではなく、その子の成長にどのように関われるかを考えるようにと指導されました。  
子どもとよく遊び、関わり、観察することを勧められました。教頭先生は（僕たちと同じ授業を見たりしながら）「どういところがへき地校らしいと思いますか」などと質問して下さったので、何気なく見ていた場面でも、「へき地ならではの工夫があるから、子どもたちはこれが出来ているのだ」などのように気付くことが出来ました。
- ・実習生も教師であるという自覚をもち行動することについて指導頂きました。
- ・板書についてです。中学年なので、文字の大きさ、筆順など、まだまだ勉強するところが見つかりました。
- ・授業中に子どもが「何か変だ」「どうしてだろう」と言い出した時が思考を広げるチャンスだということです。また教師は役者にならないといけないと指導頂きました。
- ・子ども達との関わり方（子どもの特徴、学力について）、授業の方針についてです。
- ・児童と同じ目線になり、出来るだけたくさんふれ合うことについてです。また、児童から意見を引き出して自分はあまりしゃべらないようにするようにと指導頂きました。板書の書き方、使い方、時間配分の仕方についても教えていただきました。
- ・教育に「ねらい」をしっかりとつことについてです。そのためには何をすべきか、結果はどうなったか、ということも大切であるが、まずは自分がねらいを常に意識していることが大切であるとの事でした。
- ・時間を守る、有効に使うという事についてです。また、生徒だけでなく、教師の仕事を見るようにとの事でした。
- ・生徒の反応を見て、生徒のための授業展開をしなくてはならない、ということについてです。また、教師がどのように子ども達を見て関わっているのかを見た方が良いということを教えて頂きました。
- ・教壇実習を行った後に、その授業を行ったクラスは今の担任の先生が構築してきたクラスであり、学級づくりがしっかりと出来ているからこそ、スムーズに授業を進めることができたのだと指導を受けました。学級づくりができていくクラスは授業をしっかりと受けられるクラスになるのだと感じ、自分自身はどのような学級をつくっていくか考えるきっかけになりました。
- ・授業をしてみた後に指導を受けることが多かったです。私は児童が困った顔を見ると焦ってしまい、やつぎばやに質問してしまうことが多かったのですが、そこを指摘されやすかったです。あとは話し方、発問の仕方、小道具の活用方法、時間配分などを指摘されました。
- ・発問の吟味、言葉を選ぶことについてです。また、複式の技術を単式で応用することや、用意できる時にたくさんの手立てを用意することについて指導受けました。
- ・話すスピードはゆっくりめにと指導されました。板書事項は1時間分の授業が分かるようにとの事でした。また、自分らしさを失わないようにと言われました。

- ・授業では、子どもに対してしっかりと褒めるようにとの事でした。また、実際に自分が問題を解いてみることで、子どもたちがつまづくポイントなどが分かり、子どもが問題を解く事が出来た時の凄さを実感できるので、素直に褒めることが出来るようになると教えて頂きました。さらには、一人の子に関わり過ぎないなどの指導を受けました。生活では、たくさん子どもと関わること、職員室に入る時の挨拶をもっと大きくするなど指摘されました。
- ・授業の時とそれ以外での場面で子どもに対して、授業中は「～さん」と呼ぶなど、仲良くするだけでなくしっかりとけじめを持つようにと指導されました。また、子ども一人ひとりをよく見て、どのような特徴をもっているのかなどを把握し、それに合わせた授業の対応、計画を行う（へき地・小規模ならでは）ようにとの事でした。
- ・とにかく子どもたちと遊んでくださいという話をされました。実習生の授業が終わった後は、授業の内容について細かく指導を受けました。特に私が印象に残っていることは、授業で子どもが動きやすい雰囲気教師が作っていくということや子どもの信頼関係を築いていけるような関わりをしていくようにと指示を受けました。
- ・期間中は地域の祭りの期間と重なっており、教職員の方は準備で大変忙しそうでした。その中でも、私達に子どもとの接し方、観察の視点などアドバイスを頂きました。また、良い意味で放任的だったので、自分で考えて、何をすれば良いのか、どんな行動が求められているかなど、自主的に考えて実習を行うことが出来ました。失敗も成功も含めて自由に好きにやっていると頂いたのは私たちにとって大きなものであり、本当に自分が体験したいことが行えた5日間でした。
- ・実習中は積極的に児童たちと触れ合い、とにかく楽しんでくださいと言って頂きました。授業参観の間も採点や机間指導させて頂き、多くの児童と関わる機会を設けて頂きました。特に、低学年の児童と接する時には明るい声で大きなアクションをすることが大切との指導を頂きました。児童たちと同じ時間を過ごすことの喜びと児童たちの気持ちをキャッチし応えることの難しさを強く感じました。
- ・特に指導を受けた事は、校務分掌について、どんな仕事をしているのかを教えてくださいました。誰がどれだけの仕事をしなくてはいけないかを知ることが出来たのでとても良かったです。
- ・子ども達の関係性、小規模校は異学年との交流が多いため、そのような場面で見られる子ども同士の縦のつながりをよく観察してごらんと言われました。実際、観察してみると、上級生が下級生の面倒をみたり、助けてあげたりする姿が見られました。また下級生も上級生の言うことをきちんと聞いて信頼している様子でした。
- ・授業の中で子ども達との関わり方と普段の生活の中での子どもたちの関わり方の違いについてです。また、複式における指導の仕方についても指導されました。
- ・子ども達にとっては、私たち学生はもう先生であるので、言動や行動には責任を持つということについてです。また、子どもたちと自分から積極的に関わることについて指導されました。
- ・学ぶことに対して受け身ではいけないということです。学ぶ意欲を持ち、きちんと目的を明確にして実習に臨まなければならないと指導を受けました。また、身分は学生でも子どもたちにとっては‘先生’であるという意識を常に持ち、服装、言葉、態度、行動には気を付けなければならないと指導を受けました。
- ・教師の発する一言は生徒にとって大きな一声になるので気を付けて発言しなければならないということでした。
- ・学級経営についての指導が自分の中で一番印象的でした。教師の仕事で一番大切なことは授業だと思っていた僕に「学級経営が十分でないと、絶対に授業は成功しない」と教えてくれました。その日から、教師の仕事の本質を学ぶことが出来ました。
- ・ゴミの管理についてです。自分たちとは違う地域なので、そこに合った分別をしっかりとする必要があると学びました。
- ・子ども達同士で考えることや学び合うことの重要性について知りました。また、教師が子どもを信じるのが大切だと感じました。
- ・私の場合は4回も教壇に立たせて頂いたので、その時に意識すること、授業計画等たくさん指導していただきました。特に授業中では、子どもに考えさせ発表させる、説明させることを意識して行ってほしいと助言を頂きました。少人数のため、自分が考えを表現するという部分では特に先生も力を入れていたようです。
- ・子どもととにかく遊ぶことについてです。また、授業内において、漢字の書き順に気を付けることや、声の抑揚についても指導されました。

- ・実習日誌を丁寧に書くようにと指導を受けました。
- ・まずは実際にやるのが大切であると指導されました。考えているだけでは、子ども（児童）がどんな反応をするかわからないので、失敗してでもやってみることが大切であるとの事でした。失敗した方が学ぶことも多いので、考えるのも良いことだが、実際にやってみることも大切であるという事を教わりました。
- ・複式授業の授業観察が多い上に、教壇実習も複式授業だったので、複式授業の構造・教師が意識すべきこと、子どもに必要な力についての指導が充実していました。
- ・子どもを優先に考えるということが教師にとっては、とても大切なことであると教えて頂きました。また、一人ひとりを一人の人間として扱うことが大切であると学びました。

### 13. 実習校で印象に残った活動、指導の先生の言葉や行動は何ですか

- ・職員朝会で、「児童の交流」という子どもたちのことを話す場が設けられていることです。縦割り班での活動が充実していることについてです。「児童」＝「学校」、「子ども」＝「その他も含めて」、子どもは「生活を背負って登校してくる」という担任の先生の言葉と、中休み・昼休みは目一杯子どもと遊ぶ先生方の姿が印象に残っています。
- ・教員の「協働性」です。へき地校では、全職員で力を合わせるということが非常に大切であると感じました。
- ・マラソン大会や相撲大会がありました。相撲大会は地域行事的な面もあるので、地域の方々が見に来ていました。しかし、学校行事であるマラソン大会にも地域の方々が見に来ていました。学校と地域が結びついているという印象を受けました。
- ・そば祭りに向けて4・5・6年生がよさこいに挑戦しているのを見させていただけたのが印象に残っています。本番のステージも見ることができ、良い時期に実習に行けて嬉しく感じています。
- ・とにかく褒めてくれる先生でした。子どもの実態に合わせて授業できていると言って下さいました。
- ・活動は異学年交流が盛んだったことが印象に残りました。それも意識的に行われているのではなく、休み時間は自然に同じ集団で遊ぶことが多く、都市部とは異なっていました。
- ・学校のすぐそばで様々な作物が育っており、休み時間に収穫して食べていたのに驚きました。学級でのルールがしっかりとしており、子ども達もそれに従って素直に動いていたのが印象的でした。授業では、1年生の児童が自分たちだけで課題解決活動を行っていたのに衝撃を受けました。
- ・集合学習です。上川の3校が集合し、普段よりも多く的人数で学習をしていました。その際の5・6年生のリードしていくのだという姿勢や、それに促す教師の助言も印象的でありました。
- ・「テクニクではなく、気持ちの方が大事」という言葉を頂きました。全校遊び・農園活動や、最後の日にそれぞれの子どものことを教えてくれたことが印象的です。
- ・「クリーン作戦」という活動で、授業の時間に全校生徒で地域の掃除をするといった内容が印象に残っています。場所は保育園やバス停、郵便局などでした。他にも、学校菜園で育てている枝豆やネギ、ジャガイモの収穫を全校生徒で行うこともあり、印象に残っています。
- ・地域の清掃活動を行ったとき、清掃先の保育園で小学生たちが保育園児だった時の、当時の小学生が清掃活動をしに来ている写真が出てきたことです。地域の伝統や結びつきの強さ、一丸となって教育を行っていることが伺えました。
- ・「授業は児童のためにあるから、決して教師がやりやすい方向へ持っていく授業をするのではなく、児童が分かりやすい授業をしなくてはならない」「児童がどのように理解するかを考えた発問をしなければならない。したがって発問は児童に分かりやすい言葉かつ、答えやすいものにするために、教師はそれを吟味に吟味を重ねて考え出さなければならない」という指導の先生の言葉が印象に残りました。
- ・体力作り週間が行われており、朝の時間を有効に活用していたことです。内容も低学年と高学年で分かれており、程よく運動が出来ていて良い取り組みであると感じました。担任の先生がクラスの一人ひとりに優しく話しかけている姿が印象的でした。授業中も、子どもが安心して落ち着いて取り組めるなどと思いました。
- ・指導教官の先生は毎日放課後にじっくりと指導して下さいました。ご自分の作業もある中、本当に親身になって下さいました。「複式学級では、子どもたち自身で学習を進められるかがカギとなる」と言った言葉が印象に残ってい

ます。

- ・学校祭本番に生徒と一緒に合唱に参加したことが一番印象に残っています。学校祭という一大イベントの舞台に立ち、生徒と思い出作りをすることができ、とても嬉しかったです。先生の行動としては、常に生徒中心で授業作りをしているところです。あえて、ヒントのみを与えて、そこから生徒のみで答えまでいきつかせるような働きかけを行っていました。
- ・特別支援学級のクラスも担当していた中で、「特別支援の子どもは何か一つでも出来ればいい」という言葉が印象的でした。一つ一つの積み重ねが成長に繋がっていくためとの事でした。
- ・最も強く印象に残っているのは4年生と行った川での校外学習です。自転車での移動、実際の川へ入っての水生物の観察、そして全身ずぶ濡れになっての川遊びの光景は自然豊かなへき地校ならではの活動であると感じました。教室だけで学ぶ知識で終わらせることなく、児童が自ら川に入り生物を捕まえ観察することで、児童の中のかけがえのない経験として心に残ることになるのだろうと思いました。
- ・地域の人たちとの深い交流が印象的でした。地域が良いから深い交流が出来るのであるかもしれませんが、その逆も言えると思います。小規模校はいかに地域と交流をするかが重要で、そのために教職員の方々は非常に努力をしているのだと強く感じました。
- ・印象に残った活動は全校体育でのマラソンで、教師は声掛けだけではなく一緒に走って応援していたことが挙げられます。また、外国語活動で、ALTの先生と教師がしっかり打ち合わせしていたこと、授業で教師が積極的に英語を使っていたことも印象的でした。お別れ会の運営を6年生がしてくれたこともとても印象に残りました。
- ・一番印象に残っているのは生徒の目の輝きです。心を私に開いてくれる前と後では、全く別人のように違い、子どもの力を知りました。私の講話を聞いてくれた時も真っ直ぐな視線を向けてくれて圧倒されました。また、先生方の言動や行動からは、子どもの間違いを見逃さない所に目が行きました。間違えた言動も拾ってあげ、その子にしかない良さを引き出すことが出来ていてとても心に残りました。
- ・校長先生から、実習初日に講話の際、「この世界（教員の世界）に入りたいと思った時の気持ちを忘れないことが大事」と言われたことです。やはりへき地でも、そうでなくても落ち込んでしまうことがあるので、どうしてこの世界に入りたかったのかも一度見直して、教師になった時に支えにしたいと思いました。
- ・地域一体型の神社祭に参加したことです。子どもたちは神輿を担いで町内を歩き回り、それを元気の掛け声と共にフォローをしていく先生がいて、地域の人々も協力していて、すごく一体感のある祭りに行ったことが印象的でした。
- ・生徒の心をつかむには、人それぞれ色々な方法があり、若いうちはとにかく生徒と一緒にあって昼休みに遊んだり、話をすることが有効であるということです。学級経営の土台が出来た上に学習指導が成り立つということも教えて頂きました。
- ・全てが印象深かったのですが、先生が地域散策として色々な所に連れて行って下さったことです。先生がどこに行っても皆と知り合いで、地域と密接な関係を体感しました。先生が普段どのように地域の人々と関わってきたのかわかりました。
- ・担当教諭に教師を目指そうか悩んでいるということを話したところ、「向いているか向いていないかは自分で決める事ではない。実際になってみて、他人に評価されるまで分からないし、その評価は自分の行動次第で変えることが出来る」というようなことを言われました。そのことがとても印象に残っています。
- ・川の学習です。自然学習を行っていました。子ども達は実際に川に入り、生き物を探していました。直接的に学習できる環境が整っていて子どもにとっても刺激的であったと思います。指導の先生から、授業の進行を子どもに任せることを教わりました。教師の自己満足で進めるのではなく、子どもが自分自身で授業を進めてくることが大切という言葉が印象的でした。
- ・1日1日にあった出来事（授業・休み時間・給食など）が全て印象に残っています。一番は選べません。校長先生がおっしゃっていた「子ども達のこと知らないことはまず無い」というのを聞いて、私もこんな職場で働きたいと思いました。
- ・学校行事の収穫祭では、保護者や地域の人々と学校との繋がりを強く感じました。子ども達を学校だけでなく地域全体で育てているという雰囲気を感じ取ることが出来ました。指導教諭は私の授業計画を指導してくれながらも、自分

の好きなようにまずやってみてと思い切りやらせてくれたので大変やりやすかったです。

- ・「若さ」は「武器」であるという事、「褒めて」伸ばすという指導方法、児童と一緒に遊ぶことの重要性を指導していただきました。
- ・「学校教育では危機管理、「安心・安全」がとても重要である。緻密な計画を立てて、職員会議で共通理解をはかり、下見や事前の安全指導などを行う。」という言葉や姿勢が印象に残りました。
- ・川へ校外実習へ行ったことです。校外学習は色々な事に気を配らないといけないということを学びました。また、「ありがとうございました」という感謝の気持ちも大切であるということを学びました。実習生に対しても、何かやってもらったら‘ありがとう’の感謝の気持ちを伝えていました。こういうことが大切なのだと感じました。
- ・部活動が盛んであり、男子は言い合ったり褒め合ったりして高め合っているのに驚きましたし、すごいと思いました。「小規模校の特性を生かしている」という言葉が心に残っています。
- ・メッセージ大会です。全校生徒一人ひとりが教員、生徒、保護者などの前で、日ごろ考えている事や思っている事などを伝える場ありますが、とてもレベルが高く内容も濃く、私自身が考えさせられる内容も多かったです。